

Caritas

ダイヤモンドガイド

ダイヤモンド

ダイヤモンドは永久の愛と誓いのシンボルであり、その永遠の輝きは、結婚により約束される生涯の愛を象徴しています。

カリタスはダイヤモンドの専門店です。弊社では、主要宝石研究所発行の鑑定書付きの人工的なトリートメント加工の施されていない天然のダイヤモンドだけを販売しています。

ダイヤモンドガイド

伝統的にダイヤモンドは、Cut(カット)、Color(カラー)、Clarity(クラリティ)、Carat(カラット)を表す「4C」という基準で評価されてきました。カリタスでは、お客さまにダイヤモンドを正しく評価して賢く購入していただくため、この「ダイヤモンドガイド」を用意しました。

ダイヤモンドの評価

店頭でたくさんのダイヤモンドを見てもすべて同じように見えてしまったり、ダイヤモンドのお値段の格差に驚いたりしたことはありませんか？

ダイヤモンドの評価は不可解と思われがちですが、基本的に「4C」という基準が採用されています。

カット (CUT)

ダイヤモンドの形状や研磨の仕上がりの精度を評価する基準。カットは、ダイヤモンドの輝きを大きく左右する最も重要な要素です。

カラー (COLOR)

クラリティと同様に、ダイヤモンドのカラー(色)も、自然要因に依存する特性です。

クラリティ (CLARITY)

ダイヤモンド内部に自然形成されるキズ・内包物などの特性。

カラット (CARAT)

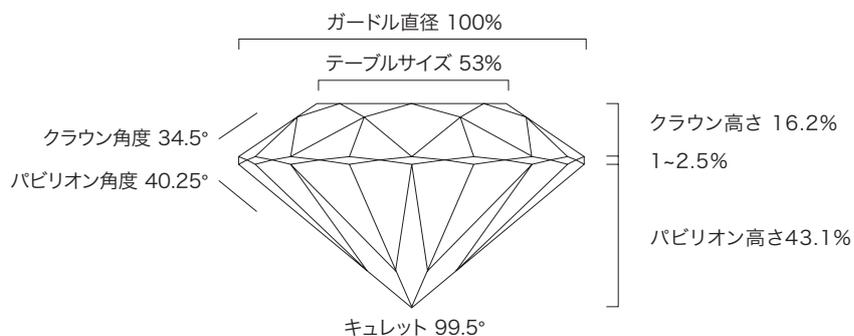
ダイヤモンドのサイズ。他の要素がすべて同じ条件の場合、ダイヤモンドのサイズに応じて輝きも増します。

ダイヤモンドのカット

カットは、ダイヤモンドのカッティング、シェイピング、研磨といった最終的な仕上がりの精度を表す基準です。

正確なカットが施された宝石では、すぐれたシンメトリー、ポリッシュ、プロポーションにより、光が最大限に反射されます。また、最大限のファイヤーが引き出されるため、さまざまな角度から見たときにコントラストの強いきらめきが生まれます。

カリタスでは、一定のご予算内でダイヤモンドをお求めになるお客さまには、できる限りカットのすぐれたものをお勧めしています。カットは宝石の美しさの決め手となるため、弊社ではほかのどの要素よりも重視しています。



このガイドでは、ダイヤモンドのカットがその輝きに及ぼす影響やダイヤモンド購入時の品質の評価方法のほか、ダイヤモンドの輝き、ダイヤモンドのグレーディングなどについても、詳しく説明してあります。

ダイヤモンドの輝き

カット段階では、ダイヤモンドの最大限の輝きが引き出されるように、原石のサイズや形状のほか、自然に形成された結晶構造などの特徴が考慮されます。典型的な「ダイヤモンド型」は、下部の逆三角形の「パビリオン」部分と上部の丸い弧を描く「クラウン」部分からなり、光を反射・屈折して最も美しいきらめきを放つようにデザインされたものです。

理想的な形にカットされたダイヤモンドでは、クラウンとパビリオンのカット角度とダイヤモンドの結晶構造とが相互に作用し、最大限のブリリアンス(輝き)、ファイヤー(虹色効果)、シチレーション(きらめき)が実現されます。

ブリリアンス(輝き)

ダイヤモンドのクラウン部は多くのファセット面から構成されるため、表面にあたった光の一部は反射し、ほかはダイヤモンド内部へ透過されます。パビリオン部分は、内部に入射した光を屈折し、再びクラウンに向かって反射させるようにデザインされます。この反射により戻ってくる光が「ブリリアンス」と呼ばれるもので、ダイヤモンドに求められる輝きを与えます。

ファイヤー(虹色効果)

「ファイヤー」とは、強い光をあてたときにダイヤモンド内部で反射して出される虹色の効果を表します。ダイヤモンドのクラウンの形状により、光のさまざまな色がダイヤモンド内部で異なる経路をたどって分散され、プリズムと同様の効果が生じます。そのため「ファイヤー」は、卓越したカットが施されたダイヤモンドの判定基準となります。

シチレーション(きらめき)

光源に対してダイヤモンドを動かしたり、ダイヤモンドを見る角度を変えたりすると、きらりとした輝きが放たれますが、これは「シチレーション」と呼ばれます。このきらめきは一瞬にして大変印象的なもので、ダイヤモンドが遠くからでも人目を引く理由となっています。

コントラスト(対照)

「コントラスト」は、ダイヤモンドの各ファセットが相互に作用しあって生み出される対照効果です。コントラストの優れた宝石では、一部のファセットが目には暗く映ることで、ほかのファセットの輝きが一段と増します。このコントラストにより、ダイヤモンドは、電球のような一様の光ではなく、キラキラとした美しい輝きを放つのです。

ダイヤモンドのカット等級

米国宝石協会(AGS: American Gem Society)公認の宝石研究所では、ダイヤモンドのカットの等級基準を設けています。AGSのグレーディングシステムでは以下の要素が考慮されます。

- ・ 光の効果—輝度、ファイヤー、コントラストなど
- ・ プロポーション—重量比率、ガードル厚など
- ・ フィニッシュ—ポリッシュ、シンメトリーなど

弊社が扱うダイヤモンドはすべて、AGSなどの研究所の鑑定を受けています。ほかの鑑定機関でも同様のグレーディングを行っていますが、評価の定義と条件はそれぞれ異なります。以下にAGSの等級とその定義を紹介します。

カリタスでは、下記のハイグレードなダイヤモンドだけを扱っています。

- ・ アイディアルカット(トリプルエクセレント)
- ・ エクセレントカット
- ・ ベリーグッドカット

ダイヤモンドのカットの詳細については、次のページをご覧ください。

ハート&キューピット

昨今、ハート&キューピットと呼ばれるカットのダイヤモンドが高く評価されるようになりました。1980年代に日本で誕生したハイグレードなダイヤモンドのカット基準であり、10倍のスコープでダイヤモンドを裏側(キューレット側)から見ると内部に「8つのハート」、表側(テーブル面)から見ると「8本の(キューピットの)矢」が映し出されることから、「ハート&キューピット」と呼ばれるようになりました。「ハート&キューピット」は、光を最も美しく反射するため圧倒的な人気があります。

カリタスでもこのグレードのダイヤモンドを幅広く扱っています。

アイディアルカット(トリプルエクセレント)

AGS等級「0」(最高級):超一流のダイヤモンドのカット技巧。カットクオリティの全要素ともトップレベルの基準を満たし、ダイヤモンドの美しさと価値ともに頂点を極めるものです。この等級のダイヤモンドは、シンメトリー、ポリッシュ、プロポーションの3要素とも最高評価を受けているため「トリプルエクセレント」とも呼ばれます。

エクセレントカット

AGS等級「1」:極めて高度なカット技巧。ダイヤモンドのカットクオリティの一要素または複数の要素にごくわずかな偏りがありますが、コンピュータ解析を行うか、特別に管理された環境下において熟練したダイヤモンド鑑定士が検証しなければ、検出不可能です。

ベリーグッドカット

AGS等級「2」:高レベルなカット技巧。ダイヤモンドのカットクオリティの一要素または複数の要素において、コンピュータ解析か熟練したダイヤモンド鑑定士により検出可能なわずかな偏りがあります。

カリタスでは、最もお買い得なダイヤモンドとして「ベリーグッド」の等級のものをお勧めしています。

ダイヤモンドのクラリティ

ダイヤモンド内部の結晶構造内には、不純物が形成されることが多くあります。これら不純物はインクルージョン、内包物、包含物などと呼ばれ、自然に生じるもので、その大きさもさまざまです。熟練した鑑定士でなければ判別できない微細なものから、ダイヤモンド内部の小さな傷、さらには、肉眼にもはっきりと見える大きめの結晶形のシミや傷などの内包物があります。

これらの傷・シミは、ダイヤモンドの輝きに影響するため、好ましくない欠陥要素(フロー)と考えられます。さらに、これらが原因となってダイヤモンドの耐久性が低下し、ひび割れや欠損が生じることもあります。

「クラリティ」は、ダイヤモンドの物理的な純度を表わす基準として用いられています。インクルージョンの少ないダイヤモンドは純度が高いものとみなされ、価値も高くなり、必然的に、価格も高額になります。

カリタスの特長

すべてのダイヤモンドが完璧とは限りません。カリタスでは、スタッフ自身が手に入れたいと思う、クラリティのすぐれたダイヤモンドのみを扱うことで、美しい輝きを保証しています。

また、すべてのダイヤモンドに、GIA Japanなどの一流の宝石研究所により発行された鑑定書をお付けしています。

インクルージョン

「インクルージョン」(内包物)はダイヤモンド内部の不純物であり、通常は、ダイヤモンドの形成過程で取りこまれたものです。インクルージョンには、さまざまな形態のものがあります。

ダイヤモンド内部に存在する小さな鉱物結晶がインクルージョンの原因となっていることもあります。その場合、ごく小さな点状のものは「ピンポイント」と呼ばれます。これが複数集合して「クラウド」が形成されると、ダイヤモンドのブリリアンスが失われることがあります。ほかには「ニードル」と呼ばれる細長い針状の結晶のインクルージョンもあります。これがダイヤモンドの表面に達したものは「ノット」と呼ばれます。

カリタスの特長

カリタスでは、クラリティ等級が「Very Slightly Included」(ごく微小な内包物あり)以上の高品質のダイヤモンドだけを扱っています。これに満たない等級のダイヤモンドは通常扱っておりませんが、お客さまからのご要望に応じてお取り寄せも可能です。

また、ダイヤモンド表面のへこみは、「キャビティ」(空隙)と呼ばれます。ダイヤモンドのインクルージョンには「フラクチャー」として知られるものもあり、一定方向に平行な割れは「クリベージ」、細長い羽のような形の割れは「フェザー」と定義されます。

上記以外にも、人為的に形成されたインクルージョンもあります。たとえば、ダイヤモンドに元々あったインクルージョンを消すためにレーザーが使用された場合には、「レーザー線」が生

じることがあります。また、ダイヤモンドのガードル部分(石の一番幅のある部分)の周囲に黒っぽい線が付いていることがあります。これは、カットの段階で形成されたインクルージョンです。

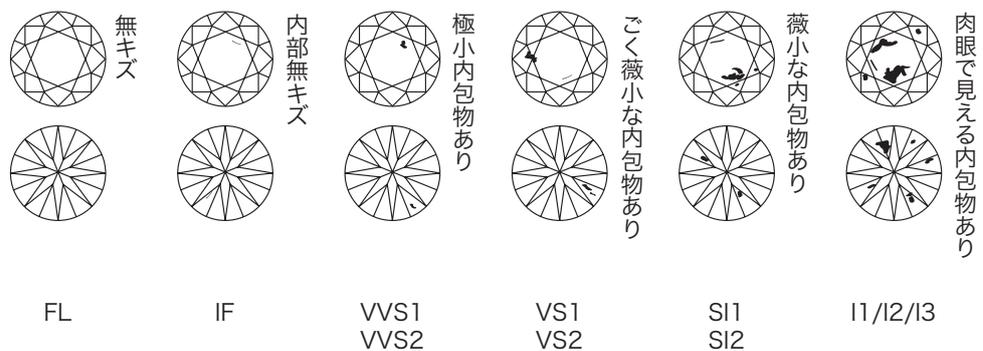
ブレミッシュ

ダイヤモンド表面に見られる欠陥要素は「ブレミッシュ」と呼ばれます。これは、表面上のわずかな欠損や傷、へこみのほか、ダイヤモンド形成時に生成された原石結晶などがあります。これらは「ナチュラル」と呼ばれ、カット工程で原石のサイズを活かすために削らずに残される場合があります。

ダイヤモンドのクラリティ等級

ダイヤモンドのクラリティを評価する際には、以下の基準が用いられます。

- ・ Flawless (フローレス:無キズ)
- ・ Internally Flawless (インターナリーフローレス:内部無キズ)
- ・ Very Very Slightly Included (ベリーベリースライトリーインクルーティド:極小内包物あり)
- ・ Very Slightly Included (ベリースライトリーインクルーティド:ごく微小な内包物あり)
- ・ Slightly Included (スライトリーインクルーティド:微小な内包物あり)
- ・ Included (インクルーティド:内包物あり)



GIA (Gemological Institute of America:米国宝石学会)では、各等級を以下のように定義しています。

FLAWLESS (フローレス:無キズ)

「フローレス」に分類されるダイヤモンドは、熟練した鑑定士が10倍の拡大鏡を使って見た場合に、ブレミッシュ、インクルージョンが一切見られないものと定義されます。ダイヤモンドの鑑定書では、「F」という記号で示されます。

ダイヤモンドを初めてお求めになるお客さまには、これ以外は低品質のダイヤモンドだと思い込んでいる方が多くいらっしゃいます。しかし、実際にはダイヤモンドは、その形成プロセスにおいて極度の熱と圧力にさらされるため、何らかの欠陥は免れないことがほとんどで、完全にフローレスのダイヤモンドはむしろ珍しいと言えます。

INTERNALLY FLAWLESS (インターナリーフローレス:内部無キズ)

GIAでは、「熟練した鑑定士が10倍の拡大鏡を使って見た場合に、わずかなブレミッシュは見られるものの、インクルージョンは一切見られないもの」と定義しています。鑑定書には「IF」と表記されます。

VERY VERY SLIGHTLY INCLUDED (ベリーベリースライトリーインクルーデッド:極小内包物あり)

GIAでは、「熟練した鑑定士が10倍の拡大鏡を使った場合でも、

見つけるのが難しいごく微細なインクルージョンがあるもの」と定義しています。この等級に分類されるダイヤモンドには、「VVS1」、「VVS2」いずれかのグレーディングが付きます(VVS1の方が上位)。

VERY SLIGHTLY INCLUDED (ベリースライトリーインクルーデッド:ごく微小な内包物あり)

GIAでは、「10倍の拡大鏡を使って精査した場合に、小さな結晶、クラウド、フェザーなどの微細なインクルージョンがあるもの」と定義しています。この等級のダイヤモンドの鑑定書には、「VS1」、「VS2」のいずれかのグレーディングが付きます。

SLIGHTLY INCLUDED (スライトリーインクルーデッド:微小な内包物あり)

GIAでは、「熟練した鑑定士が10倍の拡大鏡を使った場合に、検出可能なインクルージョン(クラウド、クリスタル内包物、ノット、キャビティ、フェザー)が見られるもの」と定義しています。この等級のダイヤモンドの鑑定書には、「SI1」、「SI2」のいずれかのグレーディングが付きます。

INCLUDED (インクルーデッド:内包物あり)

GIAでは、「10倍の拡大鏡を使うと、透明度や輝きに影響し得るインクルージョン(大きめのフェザーやクリスタル内包物など)がはっきりと見えるもの」と定義しています。この等級のダイヤモンドの鑑定書には、「I1」、「I2」、「I3」のいずれかのグレーディングが付きます。

ダイヤモンドのカラー

ダイヤモンドのカラーは、地中における形成時の自然条件に左右される要素です。ダイヤモンドのうち、無色透明のものは特に人気があります。

ほとんどのダイヤモンドには何らかの色があり、真に無色のものは極めて稀なため、必然的にお値段も高価になります。エンゲージリングには、少々のある色のダイヤモンドが最も広く使われています。

標準的な色範囲

無色透明のダイヤモンドが最高等級に分類され、着色の度合いが高くなるにつれ、等級と価格が徐々に下がっていきます。宝飾用ダイヤモンドのほとんどが、無色から黄色や茶色がかったものを対象とする「標準的な色範囲」に含まれます。

カリタスでは、一般的な需要に応じて通常は無色のダイヤモンドだけを扱っています。

蛍光性

強い紫外線(太陽の光など)が当たると、ダイヤモンドによってはかすかな蛍光を発するものがあります。これは実際ダイヤモンド自体から生じる光です。カリタスのダイヤモンドに付属する鑑定書には、ダイヤモンドの蛍光性についての情報も記載されています。

カリタスの推奨基準

無色透明のダイヤモンドの美しさは格別ですが、カラーグレードが「J」のダイヤモンドでも十分な美しさを放ちます。お求めやすさと兼ね合わせた場合、カリタスでは「ほぼ無色透明」のカラーグレードをお勧めしています。

ダイヤモンドのカラー等級

ダイヤモンドのカット、クラリティに加えて、カラーも等級別に評価されます。現在、ダイヤモンド鑑定書には、GIA (Gemological Institute of America) により確立された規格を基にしたカラーグレードが記載されています。この基準に従い、ダイヤモンドは D から Z までの等級に分類されます。

D	E	F	G	H	I	J													
無色透明			ほぼ無色透明																
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z				
僅かな色味			非常に薄い黄色				薄い黄色												

ダイヤモンドの色の測定は、カラーシート、または、基準となるマスターストーンと比較して行われます。指輪にセッティング済みのダイヤモンドの色を評価するのは困難ですが、この方法を用いることで正確に色を測定できます。

カリタスでは、下記の等級のハイグレードなダイヤモンドだけを扱っています。

COLORLESS (カラーレス:無色透明)

無色のダイヤモンドは最も希少であり、大変高価です。GIA規格の「D」(完全に無色透明)から「E」および「F」(無色透明)までのダイヤモンドは、無色透明と定義されます。

NEAR COLORLESS (ニアカラーレス:ほぼ無色透明)

「G」(最も薄い色合い)から「J」(最も濃い色合い)までのグレードが含まれます。

この等級のダイヤモンドはそれほど希少ではなく価格も手頃なため、宝飾用ダイヤモンドの大部分を占めており、プロ以外の目には基本的に無色に見えます。GIAでは、「0.5カラット未満のダイヤモンドが指輪にセットされた状態では、宝石鑑定のトレーニングを受けていない一般消費者の目には、上位5~6のカラーグレードの色の違いを見分けることはほとんど不可能である」と説明しています。

D～Z？

ダイヤモンドの色は、A～ZではなくD～Zの等級で評価されます。これは、その昔GIAが、旧来のグレーディングシステムとは異なる独自の基準を設け、Dを最高のグレードと定義したためです。GIA以前のグレーディングシステムでは、ダイヤモンドをA、B、Cのカテゴリに分類する方法が一般的でした。GIAが新しく採用したシステムでは、これら旧規格との混同を避けるため、A、B、Cの3文字は使われていません。

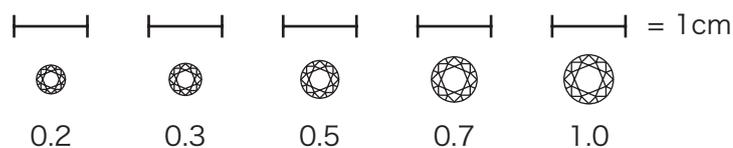
ダイヤモンドのカラット

過去、ダイヤモンドリングをお求めになるお客さまのほとんどが、「ご予算」と「ご希望の石のサイズ」の2つの要素については確かなお考えをお持ちでした。ダイヤモンドのサイズを重視されるあまり、カット、カラー、クラリティを妥協されることも珍しくありませんでした。

しかしながら、時代とともにダイヤモンド業界にも変化がおとずれ、お客さまの間で、ダイヤモンドの品質を左右する各要素についての認識が高まり、より品質の優れたダイヤモンドが求められるようになりました。ダイヤモンド業界もその需要に応え、ダイヤモンドのカット技術を劇的に向上させ、クラリティとカラーを評価する規格を導入することで、ダイヤモンド生産業者は大きさだけを重視したダイヤモンドではなく、小さめでも輝きの優れたダイヤモンドを提供するようになりました。

ダイヤモンドのカラットと価格

ダイヤモンドはさまざまなサイズに形成されますが、大きさが増すにつれその希少性も高まります。ダイヤモンドはサイズが増すほど価格も高くなるため、原石をカットする段階で技術者はできるだけ大きく仕上げるよう尽力します。



カリタスではお求めやすさを第一に考えておりますが、品質が同程度のダイヤモンドの場合、サイズの違いは価格に大きく反映されます。大きな原石ほどその希少価値も高く、大きさを維持しながら精巧なカットを施すのが極めて困難となるため、大きなダイヤモンドには大変高価な値段が付きます。実際、石の大きさが2倍となった場合、価格は2倍をはるかに超えた額になります。

ダイヤモンドのサイズと安全性

大きなダイヤモンドほど、ぶつかりやすく、傷も付きやすくなります。ダイヤモンドの硬度(摩擦・引っ掻き傷に対する強度)は極めて高いのですが、宝石につきものの特性として、直接衝撃を受けた場合に破損が生じることがあります。

ダイヤモンドにはフロー(欠陥要素)が含まれ、サイズが大きくなるとその分フローも増え、輝きが損なわれるだけでなく、強度も弱まります。カリタスでは慎重に商品を厳選し、重大なフローを伴わないダイヤモンドだけを提供しています。大きめのダイヤモンドをお求めの場合は、価格は高くなりますが、できるだけフローの少ないものを選別されることをお勧めします。

ダイヤモンドのサイズと指輪のセッティング

カリタスでは、大きなダイヤモンドを単独で使わずに、複数の石をあしらってブリリアンスを引き出すようにデザインされたリングを多く扱っています。サイドダイヤモンドをデザインに取り入れることで、キラキラとした輝きがいっそう増します。

ダイヤモンドのシェイフ

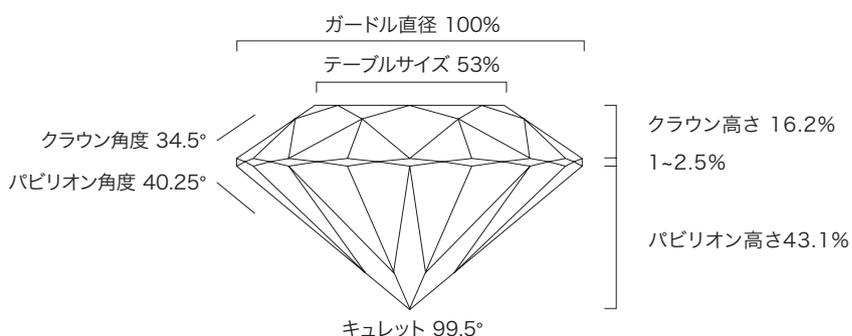
ダイヤモンドのカットには意匠を凝らしたさまざまな技法がありますが、エンゲージリングで最も人気のあるのが、ダイヤモンドの輝きを最大限に引き出す「ラウンドブリリアント」と呼ばれるカットです。カリタスではセッティングのスタイルも厳選し、弊社商品にふさわしいこの格調高いラウンドブリリアントカットのダイヤモンドのみを販売しております。

ラウンドブリリアントカットが光を反射する仕組みや、これがエンゲージリングに理想的と考えられる理由については、次のセクションをご覧ください。

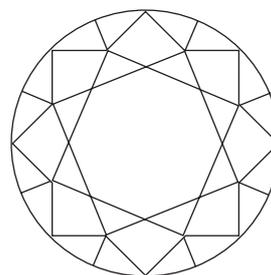
ダイヤモンドの構成

ダイヤモンドは、基本的に3つの部分から構成されます。

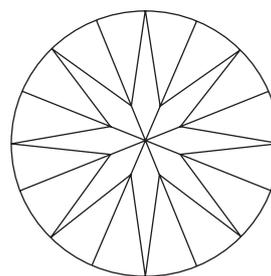
光を取り込み、屈折させて虹色の輝きを作り出すダイヤモンドの上部表面は、「クラウン」と呼ばれます。クラウンの中心の一番大きな面は「テーブル」と呼ばれ、ダイヤモンド内部の輝きを映し出します。テーブルの周囲には、ブリリアンスとファイヤーを最大限に引き出すようにデザインされた小さめのファセット(面)が並んでいます。



ダイヤモンドの下部の逆三角形の構造部分は「パビリオン」と呼ばれます。この部分は、ダイヤモンド内部に入射した光を屈折させて、再びクラウンに向かって反射させるように、多数のファセット面から構成されます。パビリオンの形状で最も重要となるのは、ダイヤモンド内部から最大限の輝きを反射させるための理想的なシンメトリー(対照性)です。カリタスが扱うラウンドブリリアントのダイヤモンドでは、パビリオンの角度が最適にデザインされており、その頂点または先端面は「キューレット」と呼ばれます。ファンシーなカットの場合、細長い「キール」シェイプが使われていることがあります。



top view



bottom view

ダイヤモンド中央部の帯の部分は「ガードル」と呼ばれ、クラウン部のファセットとパビリオン部のファセットの境界面となります。

ラウンドブリリアント

ラウンドブリリアントダイヤモンドの人気には、それなりの理由があります。この形のダイヤモンドの輝きはすばらしく、美しいコントラストを生み出し、傷などの不具合は最小限に目立たなくなります。

ラウンドブリリアントダイヤモンドは、過去百年を経て現在の理想的なデザインへと進化しました。現在、理想的なラウンドブリリアントダイヤモンドは、クラウン部のファセットは33面、パビリオン部のファセットは25面(ダイヤモンド一番下の先端面キューレットも含む)の構造を持ちます。

「ハート&キューピット」カット(5ページ参照)の誕生により、ラウンドブリリアントダイヤモンドのシンメトリー性が頂点を極め、最大のブリリアンスが実現されました。

「ラウンドブリリアントデザイン」は、長年の努力の末に頂点を極めた美しさのため、一番の人気を誇るデザインとなっています。

上記2つの図は、ラウンドブリリアントカットを上と下から見た図です。ダイヤモンドのクラウンの中心にある大きな八角形の面が「テーブル」です。またパビリオンは多角錐体で、その頂点がキューレットです。実際には、キューレットにカット面を加えることで、ダイヤモンドの強度を増し、ぶつけたときの衝撃から保護することができます。

ダイヤモンドとは？

ダイヤモンドは結晶構造を持つ宝石で、その表面にあたった光が反射して美しい輝きを放ちます。天然ダイヤモンドの原石は、約30億年もの昔に地中の奥深い場所で形成されたものがほとんどで、そのためダイヤモンドは美しさだけでなく、永続性も大きな魅力となっています。また、天然の物質としてはダイヤモンドの硬度は極めて高く、毎日身に付けていても傷がつくことはほぼないため、アクセサリーには最適の素材です。

その永遠の白い輝きを放つダイヤモンドは、何世紀にもわたって宝飾品の素材として使われてきました。そして今日では、ダイヤモンドのエンゲージリングは、その永遠の輝きのように、変わらない愛の象徴となっています。

カリタスの特長

カリタスでは、高品質のダイヤモンドのみを取り扱っており、主要宝石研究所発行の鑑定書付きの人工的なトリートメント加工の施されていない天然のダイヤモンドのみを販売しています。また、ダイヤモンドの倫理的要素を懸念されるお客さまにも安心して商品をお求めいただけるよう、倫理的工程を経て生産されたエシカルダイヤモンドも提供しています。

ダイヤモンド市場

ダイヤモンドは世界各地の鉱山で採掘され、従来ベルギーのアントワープにある世界的取引市場において、販売業者と卸売業者の間で売買されてきました。しかし、昨今ダイヤモンドの取引形態も変化し、注文に応じてサプライヤから直接ダイヤモンドを購入できるようになったため、カリタスでも、大量の在庫を抱えずに事業を展開できるようになりました。このようにシンプルなビジネスモデルを導入したことで、お客さまからのご注文に応じて最適なダイヤモンドを入手し、お求めやすい価格で提供することが可能となりました。

人工ダイヤモンド

今日、高品質の人工ダイヤモンドの製造技術が開発され、さまざまな用途に使用されるようになりました。また、ダイヤモンドの外観を向上するため、人為的な加工処理(トリートメント)が施されることもあります。カリタスでは、人工的に製造されたダイヤモンドやトリートメント加工が施されたダイヤモンドは一切扱っておりません。弊社のダイヤモンドは、主要な宝石研究所により発行された鑑定書付きで、トリートメント加工の施されていない天然のものであることが証明されています。

